



多摩市立瓜生小学校

# 学校だより

平成29年度 第13号

平成30年 2月 28日

## 感謝の気持ち

校長 吉田 正行

私たちに様々な感動を与えてくれたピョンチャンオリンピックが閉幕しました。試合前後のインタビューの中で、多くの選手が口にしていた言葉がありました。何という言葉かお気づきでしょうか。それは、「感謝」という言葉です。

右足に大けがをしながら、フィギュアスケート男子で66年ぶりの連覇を成し遂げた羽生結弦選手は、「多くの応援が私の演技を最後まで支えてくれた。今は感謝の気持ちだけ」また、スピードスケート女子500mで金メダルを獲得した小平奈緒選手は「私一人では越えられないような壁もたくさんあった。みなさんの支えがあって私という人間ができた」と感謝の気持ちを述べています。さらに、カーリング女子で歴史的な銅メダルを獲得したメンバーは、「本当にチームの仲間や支えてくれたスタッフ、カーリングを続けてくれた先輩方に感謝している。また、素晴らしい試合をしてくれた相手チームにも感謝したい」と述べています。

さて、先月号で校長室に6年生を招待し、一緒に給食を食べているとお伝えしました。その時に「わたしのひとこと」というカードを書いてきてもらい、話題にしています。そのカードの項目には、「6年間で一番心に残っていること」や「中学校で頑張りたいこと」「100万円を一日で使うとしたら?」「有名人に会えるとしたらだれと会いたい(芸能人、スポーツ選手、歴史上の人物など)」「将来の夢」などがあります。

将来の夢の話になると話がはずみます。美容師、科学者、サッカー選手、野球選手、バスケット選手、空手選手、声優、小説家、建築家、ゲーム会社、パティシエ、大工、小児科医、国境なき医師団など子供たちの夢は様々で頼もしい限りです。

その中で、「プロ野球選手になりたい」と話す子がいました。会話を進めていくと、オリンピック選手と同じ「感謝」という言葉が出てきました。その子は、大好きな野球を続けてこられたのは、コーチをはじめ、試合会場まで送ってくれた方々やお弁当を作ってくれた家の方のお蔭だと話していました。その他にも悩んでいる時に家族や友達が話を聞いてくれたり、励ましてくれたりして嬉しかったなど「感謝している」と話した子が多くいました。感謝の気持ちを語る子供たちの様子を見て、心が温かくなり、給食がより一層おいしくなりました。

いよいよ3月です。各学年のまとめの時期、特に6年生は卒業という節目にあたります。今ある自分や安心して生活できる環境は、決して自分の努力だけでできたものではありません。家族や友達、地域の皆さんに助けられ、支えられてきたからこそ、今の成長があるのだという感謝の気持ちをもたせ、有終の美を飾らせたいものです。

一年間、本校の教育活動を支えてくださった多くの皆様に感謝いたします。残りわずかとなりましたが最後までよろしくお願いいたします。



自分たちの歌やパフォーマンスを発表する  
「のど自慢集会」の様子。素晴らしい仲間に感謝。